

2024年度第2回神戸市子ども・子育て会議

日時：2024年9月12日（木）13時30分～15時30分

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

1. 開会

2. 議事

(1)

(2)

●事務局

資料1により説明。（省略）

資料2により説明。（省略）

○委員

- ・資料2の次期計画素案は、印刷して市民へ配布するのか。

●事務局

- ・印刷もするが、パブコメを実施して、市ホームページを含め広く見てもらえるようにする。

○委員

- ・主な取り組みに書かれている、「プレコンセプションケア」「思春期デリバリー授業」「エコファミリー制度」など、よく意味が分からない。他の職員に聞いてみても分からないようだった。一般的に言われる、中学生が見て分かる文章となるよう工夫してほしい。

●事務局

- ・現行プランは巻末に事業名と取り組み内容を記載している。次期計画でも同じように、分かりやすく工夫していきたい。

○委員

- ・3の柱について、「こどもの自己実現」というのは難しい部分もある。例えばサンプルに「こども・若者が主体のまちづくり」など、せっかくなので若者も捉えていければと思った。

○委員

- ・「自己実現を支える」というのは難しい。「こどもに任せてみる」というのが大人目線であるということであれば、例えば、こどもたちが主人公のイメージとして、「こどもの『やってみたい』を支える」など、こどもの言葉が入って

それを支えるという形が良いのではないか。

- ・ 3の柱の追加骨子案について、こどもが主体となるような支援になるのか違和感がある。大人の責任で、命の大切さをこどもたちに届けるというのであれば、様々な状況に置かれたこどもたちに応じた命の大切さを啓発していくという視点で、2の柱の「こども・子育て世帯の状況に応じた支援」に入れてはどうか。

●事務局

- ・ 辻委員にも協力いただき、ユース施設で若者から意見を聞く取り組みを予定している。3の柱については、若者の意見も聞きながらもう少し考えていければと思う。

○委員

- ・ 「『やってみたい』を支える」は分かりやすくて良いと思う。こどもたちが見ても分かりやすい文章が良いと思う。

○委員

- ・ 命の大切さという基本的なことを示すのであれば、3の柱の前提ということで1番最初に持ってくるという考え方もあるように思う。

●事務局

- ・ 3の柱の追加案については、柱の名称と共に検討していければと思う。

○委員

- ・ こどもの命の大切さの項目は、非常に大事なことなので、ぜひとも盛り込んでほしい。

○委員

- ・ プレコンセプションや思春期デリバリー授業との関連で、特別なニーズがある2の柱に入れるのが適切ではという意見もあったが、こどもが生と性を学ぶ、大切さを共有できるなど、全てのこどもに保障していくのであれば、3の柱にあるべきかと思う。

○委員

- ・ 最初の委員からのご意見は、事業内容から判断して別の柱に入れてはどうかという意見だと思う。内容をこども主体に書くなどして、3の柱の一番上に整理してもらえたらと思う。
- ・ 権利条約の尊重はこども家庭庁も言っている。権利条約の意見表明権は0歳からであり、赤ちゃんも泣いて主張したり、就学前のこどもであれば心情的なことで訴えていることもあったりする。言葉にならない声を聴くことも意識して盛り込んでもらえたらと思う。

○委員

- ・3の柱は、切れ目のない視点で考えると、「こども・若者」という言葉を使っただけだと心強い。
- ・こどもの自己実現よりは、「こどもの『やってみたい』が実現できる」とか、「自己成長の支援」といった言葉尻でも良いと思う。中高生など若者の意見も聞いてみるのが良いと思うので、ユース施設で聞き取り、次回の会議で報告できればと思う。
- ・命の大切さは非常に大切なことなので、3の柱の1番最初に持ってくるべきだと思う。

○委員

- ・「こどもの『やってみたい』を支える」というのはこどもにも分かりやすく、応援してもらっているという気持ちも伝わって良いと思う。一方で、それをどこにどう伝え、どう実現していくかが問題である。先日、市長・教育長と小・中学生や高校生との対話フォーラムが実施されたが、そういった機会があればこどもは楽しいし、意見を聞いてくれるということが分かると思う。この取り組みが継続できるのであれば、主な取り組みのところに掲載すべきかと思う。2020年から小学校でアクティブラーニングが始まる予定だったが、コロナで中止となった上に様々な制約を受け、こどもは何をして良いのか分からなくなっている部分があるのではないか。自分で考えていく機会があれば良いと思う。

●事務局

- ・「こどもの『やりたい』を支える」ことは大事だと考えている。児童館やユース施設でもそういった取り組みを進めている。昨年度も児童館のモデル事業で、こどもが企画から参加して自分たちのやりたいことを実現していくような取り組みを実施した。今年度は谷上駅前のフリースペースにおいて、中学生の発案で地域の夏祭りを開催し、こどもが自分たちで準備から一貫して取り組んだ。
- ・以前に実施したこどもアンケートの自由意見の中でも、「市に直接回答することができて嬉しい」といった喜びの声もあった。引き続き、市長との対話フォーラムやGIGA端末での意見聴取など、大小様々な取り組みを進めていき、こどもから直接意見を聞く機会をこれからも作り続けたい。

○委員

- ・「『やってみたい・やりたい』を支える」は重要だと思う一方で、積極的な子どもを後押しするイメージが強い。積極的に前に出ていく子ばかりでもないのだから、そういう子をどうするのか。「自分らしさを支える」など、そういったニュアンスが含まれるとありがたい。

○委員

- ・文章でどのように表現すれば良いのか分からないが、関わる大人にどんな能力があるかが問われると思っている。現場の先生が習っていない・体験していないことをしないとイケない中で、一般の方が果たしてどれだけできるのか。また、こども主体だけで良いのか、それを支える大人や地域の人もいるのではないのか。みんなで共同していくためには自分の意見だけが通るのではないということも伝えないとイケない。うまくいかない経験をたくさんさせて、そこで学んでいく。大人もそれを支え、大人自身も育たなければいけない。

○委員

- ・「『やってみたい』を支える」の「支える」は地域社会全体を指しているの
で、そこに含まれるようにも思う。

○委員

- ・「関係機関との連携」という言葉がよく出てくるが、どのようなところまでが関係機関と考えているのか。地域に根付いた活動をしている民間の子育て支援団体はたくさんある。そういった団体との連携がプランのどこに入ってくるのか分かりづらい。
- ・1の柱の「親と子の健康の確保・増進」にある「子育ての不安を解消し、安心して子育てできるように」というのはもちろん理想だが、解消するのは難しいと思っている。解消できなくても大丈夫だと伝わるような表現になれば良いと思う。
- ・2の柱の、医療的ケア児を抱える親の負担はかなり大きい。検証アンケートの市民調査結果でも、相談できる人がいない方が2.3%いるのは大きいことだと感じている。医療的ケア児の世話により、他の健常の兄弟も遊びに行きづらくなるなど、家族も負担を抱えている。そういったことへの配慮もこのプランでは盛り込まれていると思うが、表立ってもう少しそのような言葉が入ると、当事者により届くのではないかと思う。

●事務局

- ・関係機関は、素案の基本的な視点にも記載しているように、広く市民や企業、大学、サークル活動する方々、主任児童委員など、いろんな形で支えてもらっている。そういった方も含めてみんなでこども・子育て世帯を支えていけたらと考えている。

○委員

- ・さまざまな関係機関全体が把握できているということか。

●事務局

- ・全てを網羅的に把握できているかという点と難しい部分もあるが、窓口や保育士・保健師などが子育て世帯とつながって話を聞きながら連携している。

○委員

- ・垂水区の保健師と認定こども園や幼稚園の園長、児童館長、社会福祉協議会のコーディネーター、子育て応援プラザの先生などが定期的に集まっていた。そういう好事例を他の地域にも広げてもらおうと、いろいろな家庭を支えていける地盤ができると思う。こどもの成長を見て声をかけられる関係性をつくれるのは地域の力だと思っているので、行政の力でそういった機関同士を繋いでもらえたらと思う。

●事務局

- ・1つ目の柱について、「解消する」のは仰るとおり難しいと思うので、「軽減していく」など表現を検討する。
- ・医療的ケア児やそれを取り巻くことの表現については、療育ネットワーク会議において、関係する医療・福祉サービス、教育部門等で切れ目のない支援について議論する検討会を設けている。「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」に関係するところは、福祉局が所管している障がい者プランに掲載もあるが、すこやかプランでの表現についても、関係部局と話をし検討したい。

○委員

- ・「医療的ケア児及びその家族」という表現に変えても問題ないか。

●事務局

- ・表現を検討したい。

○委員

- ・資料2の72ページの図について、区役所を中心としてさまざまな関係機関と繋がり、1人1人に丁寧な支援をしていくことが言いたいのは分かるが、ここに書いてあるだけで良いのか、また、学校の上にSNS相談があったり、学校が区役所から一番遠いところに配置されていたり、項目の配置が気になった。雰囲気では分かるが、しっかり見ると疑問に思う部分がある。区役所がこんなに重い内容を担えるのか。もう少しわかりやすく書いてもらえたら。「基本的な視点」を踏まえて図を再考してもらえればと思う。「基本的な視点」にある市民・企業・大学・NPO・地域団体が図には無い。

○委員

- ・神戸市では、各区役所を児童福祉法上のこども家庭センターに位置付け、それとは別に都道府県・政令市に設置されるこども家庭センターがあり、同じこども家庭センターという名称のものが2つ存在しているのがまずいと思われたのかも知れない。名称を変えるなど、整理しないとそろそろ限界かもしれない。

●事務局

- ・身近な相談窓口からつながるということで、窓口を中心としたイメージ図ができればと挑戦したものである。「区役所」の表記は、児童福祉法上のこども家庭センターのことだが、市民にとって分かりやすい表現にするため、「区役所」と表記した。項目の配置の仕方についても工夫したい。

○委員

- ・25年近く地域福祉センターで子育て支援をしているが、最近、近隣市から神戸が良いと移住して来られた方の話をよく聞くこともあり、柱4の「神戸ならではの子育てが楽しめる環境づくり」の項目が嬉しいと思った。神戸須磨シーワールドは学校団体であれば無料で行けること等、もう少し細かく保護者にも分かるようにできればと思った。
- ・子育て支援施設に来られた3か月児の保護者から、「ずっと働いていたから地域なんていらなと思っていたが、子育てを始めた途端に、話し相手がおらず孤独になった。ホームページで子育て支援施設を見つけ、やっと孤独から抜け出せた」という声があった。もっと相談窓口の広報をするなど工夫してもらえたらと思う。
- ・育休中の夫婦が揃って子育て支援施設に来てくれた。こういったあたたかい事例も紹介してもらえたらと思う。

○委員

- ・引っ越して来られた方にもプランの内容を分かりやすく紹介する、便利帳のようなものを作成する予定はあるか。

●事務局

- ・プラン上の見せ方と、子育て施策をそれぞれの子育てステージの方へどう伝えるかについては冊子も1つの手段だが、施策内容も変動するものなので、例えば、現在取り組んでいることとして、実際にサービスを利用した子育て世帯の声をInstagramに掲載したり、神戸で子育てしたエピソードを読み物としてホームページ（子育て応援サイトこどもっとKOBE）に載せたりしている。今後もプランに基づいて、個々の情報の充実をしていきたい。

○委員

- ・柱4の「神戸ならではの子育てが楽しめる環境づくり」について、子育てしやすく働きやすい職場環境の啓発が重要な一方で、職場だけではなく学校の行事のあり方や進め方も考える必要がある。保育所・幼稚園まではそのような行事の情報を早めに教えてもらえていたのに、小学校になるとそれが直前に言われるようになったり、保護者が対象の説明会が平日の昼間にあたりする。子育てしやすく

働きやすい環境は、職場以外のいろんな観点も含めて考える必要がある。そのような内容も考慮し進めていく必要があると思う。

●事務局

- ・学校でも保護者負担の軽減を進めている。例えば、これまで入学式に配布し1週間以内に提出を求めていたものをもっと早く入学説明会時に配布するように変えたり、PTAの加入を立候補制に変えたりする等の改革などを行っている。

○委員

- ・子育てしやすく働きやすい職場環境について、中小企業に関してはいかがか。

○委員

- ・実情を課題も含めお伝えすると、子育て支援制度に取り組んでいるのはどうしても大企業が先行する。商工会議所の構成として大企業は一握りであり、従業員20名以下、サービス業だと5名以下の小規模事業者が7～8割を占めており、小規模事業者にいかに関与するかが課題である。商工会議所としても、引き続き助成金や制度の普及啓発に取り組んでいく。

○委員

- ・自然学校の保護者説明会をオンラインにするなどの工夫も広がってきている。
- ・警報時の対応のために親が休まないといけないことは大きな課題。最近の台風や大雨は大きな災害になる実態もあり、子どもたちを家に留守番させておく時代ではなくなってきている。これからは警報時に、子どもたちのそばに大人がいる仕組みを社会全体でつくるべきだと思う。例えば学校であれば、教職員が子どもを見ることができるとはいいので、子どもを学校で預かってもいいのではと思っている。局をまたいだ連携で取り組んでもらえるとありがたい。
- ・資料2の72ページの図は、区役所を中心に身近な相談窓口を示すことが1番の目的であれば、ライフステージごとに行くべき窓口がどこかを分かる図にするとうまいのではないか。
- ・検証アンケートを見ると、児童館の自由来館が増えているが、子育てチーフアドバイザーが全児童館に配置され、区役所以外にも身近な相談窓口があるということが図で示せたらと思う。

●事務局

- ・警報時の対応については、例えば在宅勤務の選択もあると思うが、様々な意見を踏まえて対応を考えていきたい。

○委員

- ・子育てチーフアドバイザーが配置されている児童館は地域子育て相談機関で、その中心となるのが区役所であることが分かる図にしてもらえればと思う。

○委員

- ・資料2の81ページのファミリー・サポート・センターの量の見込みについて。他の事業はこどもの数が減っても横ばいか増加している一方で、ファミリー・サポート・センターは減っている。国の事業ではあるが、やるならもう少し機能するよう、今後どう進めていくか考えないといけない。

●事務局

- ・量の見込みは、国の手引きに則り週単位の表示だが、実績は年間1万件前後である。見込みについては、他の子育て支援制度の充実に伴い減っているということもあるが、地域住民の相互の支え合いという有償ボランティアの枠組みをさらに活かす方向で考えたい。

●事務局

- ・住民同士の支え合いということもあり、その担い手の確保に難しさがあるのが現状ではあるが、この制度を求めておられる方もいる。今後の展開については実情を踏まえながら取り組んでいきたい。

(2) 「教育・保育部会」、「放課後子ども総合プラン推進委員会」、及び「神戸市社会的養育推進にかかる検討委員会」等での検討状況

●事務局

資料3により説明。(省略)

資料4により説明。(省略)

資料5により説明。(省略)

○委員

- ・社会的養育推進計画では里親委託率のR11目標値が36.9%になっていた。今は12%くらいで横ばいである。ずっと横ばいの状況が続いているが、何が原因でそのようになっているのかを把握し、どうすれば目標に近づくのか検討し、検討委員会でも引き続き議論し、反映してもらえたら。

第2回 神戸市子ども・子育て会議 委員追加意見要旨

- 児童館の子育てチーフアドバイザー、ファミリー・サポート・センターの様子も少しわかりやすく市民に伝わる工夫があればよい。YouTubeやInstagramの活用は既にされているのか。
- 計画の検証について、単に割合だけで比較するのではなく、全体の利用者数の推移にも留意し、今後分析いただきたい。
- 学童保育の施設利用者アンケート「(2)学童保育に期待していること」の設問が単一選択式になっているが、「安全な居場所」とその他の選択肢は趣旨が異なるように感じる。「安全な居場所」があったうえで、その他の項目は追加で期待することのようにも思うので、次回より複数選択式にしてはどうか。その他の設問でも、複数選択式の方がよりニーズを拾うことができるのではと感じた。
- テレワークというのはあくまでも働くロケーションが自宅等であるだけで、職務専念義務があり、「こどもの世話」という業務以外のことをしながら、仕事をすることは一般的には就業規則違反にもなりかねないことから、明確に禁止している企業も多いと思う。テレワークをすればこどもの世話をしながら働くことができる、といったような誤った印象が発信されてしまわないよう、ご留意いただきたい。
- こどもを生み育てたいという妊娠期の女性と配偶者の気持ちを大事にしてほしい。働きやすい環境も大事だが、子育てに専念している人もあって良い。そういうメッセージもあれば良いと思った。
- 学校などの教育現場で、こども自身が考え、話す機会を持つことが大事である。また、こどもの意見がどのように反映されたのかをフィードバックすることで、こどものモチベーションにつながるのではないかと。
- カタカナ表記ではなく、わかりやすい日本語で書く方が伝わりやすいと思う。
- 計画素案に書かれている主な取り組みについて、実際に実施していることと今後取り組んでいくことを切り離して書かないと誤解を生むのではないかと。

- こどものSNS利用など、ネットリテラシーは大きな問題になっている。もっと積極的に学校内で取り組んでほしい。
- 子育ては費用がかかるからこそ、ベビーベッドやベビーカーなどの子育て用品のリユースの取り組みがアピールになるのではないか。
- 神戸市はとても良い子育て施策を展開しているので、市民の力を活かし、子育て世代だけでなく、市内・市外のあらゆる世代に強く発信してほしい。